

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年10月27日(2005.10.27)

【公開番号】特開2003-176304(P2003-176304A)

【公開日】平成15年6月24日(2003.6.24)

【出願番号】特願2002-256390(P2002-256390)

【国際特許分類第7版】

C 0 8 B 37/00

G 0 1 N 33/579

G 0 1 N 33/66

G 0 1 N 33/96

// C 1 2 P 19/04

【F I】

C 0 8 B 37/00 C

G 0 1 N 33/579

G 0 1 N 33/66 Z

G 0 1 N 33/96

C 1 2 P 19/04 A

【手続補正書】

【提出日】平成17年7月5日(2005.7.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

当該脱脂乾燥菌体2gに0.1mol/L NaOH 200mLを加えて懸濁し、NaClO(アンチホルミン、和光純薬工業株式会社製)をそれぞれ有効塩素濃度が0.5%~1.5%となるように添加して、4で一夜攪拌し酸化分解した。得られた酸化物を3,000rpm、10分間遠心分離し沈殿物を得、(1-3)-D-グルカンを含まない蒸留水200mLを加え、攪拌後遠心分離(3,000rpm、10分)し、その沈殿物にアセトン200mLを加え脱水沈殿物として各々の菌株由来の本発明物質1を得た(アスペルギルス・フミガタス由来の本発明物質1をグルカン1-f、同様にアスペルギルス・ニガー由来をグルカン1-n、アスペルギルス・オリゼー由来をグルカン1-o(有効塩素濃度1.5%の次亜塩素酸処理して得られたものをグルカン1-o-1とし、有効塩素濃度0.5%の次亜塩素酸処理して得られたものをグルカン1-o-2とした)とした)。収量はそれぞれ350mg程度であった。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

また、対照として使用するためにカンジダ・アルビカンス(*Candida albicans*: IF01385)を用いて同様の手法で対照物質(対照1:有効塩素濃度1.5%の次亜塩素酸処理によって得られたものを対照1-1とし、有効塩素濃度0.5%の次亜塩素酸処理をして得られたものを対照1-2とした)を調製した。

得られた各サンプルの収量と収率、使用した有効塩素濃度は以下の通りであった(表1)。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

実施例 2

本発明物質 2 の調製

上記実施例 1 で 2g の脱脂乾燥菌体を有効塩素濃度 0.5% で処理して得られたグルカン 1 - f (IF0-4400 由来及び IF0-30870 由来)、1 - n、1 - o - 2 の全量に DMSO 30mL を加え、1 時間超音波をかけて溶解させた。3,000rpm、10 分間遠心分離し、上清を得、該上清に 4 倍量のエタノールを攪拌しながら加えてグルカンを析出させた後、該析出物を 15,000rpm、15 分間遠心分離し、沈殿物を得た。該沈殿物にアセトンを 100mL 加え攪拌し、3,000rpm、10 分間遠心分離して脱水した沈殿物を得、減圧乾燥して本発明物質 2 の粉末を得た。グルカン 1 - f 由来の本発明物質 2 をグルカン 2 - f，同様にグルカン 1 - n 由来をグルカン 2 - n，グルカン 1 - o - 2 由来をグルカン 2 - o とした。